

## 国際ワークショップ

近年、東アジアで「歴史問題」が深刻な政治外交問題にまで発展している。その源はどこにあるのだろうか。東アジアにおける語りの交換・重層への探求はそれを探る鍵となるだろうか。

### 【開会の言葉】

**山室信一**（京都大学人文科学研究所・教授）

### 【プログラム】

司会：森岡優紀

「Narrative Rupture in Matayoshi Eiki's Ginnemu Yashiki  
（断絶する語り：又吉栄喜『ギンネム屋敷』）」

**Davinder Bhowmik**（ワシントン大学・准教授）

「『贈与』と『文』：柄谷の「帝国」論を中国思想から読む」

**林少楊**（東京大学・准教授）

「歴史叙述と記憶：伝記からみる連鎖と反転の東アジア」

**森岡優紀**（京都大学人文学研究所・特別研究員）

### 【パネルディスカッション】

「語りの交換・重層・伝播」

**山室信一**（京都大学人文学研究所・教授）

**陳力衛**（成城大学・教授）

# 東アジアにおける 叙述と歴史

2016年 **2月13日(土)** 13:00~17:00

京都大学人文科学研究所 3Fセミナー室4 (331)

主催：京都大学人文科学研究所「現代/世界とは何か？」研究班

協力：京都大学 研究大学強化促進事業 百家争鳴プログラム

お問合せ：京都大学人文科学研究所

annai@zinbun.kyoto-u.ac.jp Tel: (075) 753-6902

予約不要  
無料

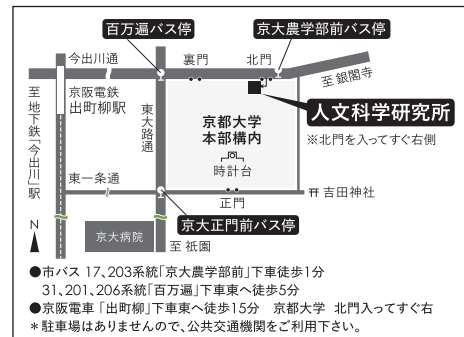
# 東アジアにおける 叙述と歴史

日時

2016年 **2月13日(土)**  
13:00~17:00

会場

京都大学人文科学研究所  
3Fセミナー室4 (331)



## 山室信一 (京都大学・教授)

日本と中国・韓国、そして世界との共時的連関を分析の主軸を置きながら、且つそれらの相互影響によって変容する現代世界の変遷を描き出す研究を行っている。主要著作：『法制官僚の時代』(1984)、『キメラ 満州国の肖像』(1993)、『思想課題としてのアジア』(2001)、『憲法9条の思想水脈』(2007)、『複合戦争と総力戦の断層』(2016)

## 陳力衛 (成城大学・教授)

近代漢語を中心として、幕末から明治期にかけての近代日本語の成立過程に関して、研究を行っている。主要著作：『和製漢語の形成とその展開』(2001)、『日本の諺・中国の諺一両国の文化の違いを知る』(2008)

## Davinder Bhowmik (ワシントン大学・准教授)

現代の沖縄文学から沖縄人のアイデンティティを読む解く研究を行っている。現在はアメリカ軍基地がもたらす沖縄への影響をテーマとしている。主要著作：“Writing Okinawa: Narrative Acts of Identity and Resistance” (2008)

## 林少陽 (東京大学・准教授)

日中近代初期の文化的交流について、「文」というキーワードで思想史、文学史、文化史等の学際融合的な研究を進める。また、現代日本におけるポストモダニズム思想の受容、柄谷行人も研究。主要著作：『「修辞」という思想一章炳麟と漢字圏の言語論的批評理論』(2009)、王中忱、林少陽編『重審現代主義：東亜的視角及漢字圏の提問』(2013)

## 森岡優紀 (京都大学・特別研究員)

清末と明治期における知識人の文化交流から、近代的叙述の形成に関する研究を行っている。また、中国のポストモダニズム文学と評される蘇童、格非等の作家も研究。主要著作：『中国写実小説の成立』(2012)